



魁勝旦祈

本名は本多^{おん}旦祈。浅香山部屋所属。平成7年1月 日生まれの 歳。センチメートル、キログラム。左四つが得意。吉良中学校、愛産大三河高校時代は柔道部で活躍。高校卒業後に友綱部屋に入門。 年に独立した親方に伴って部屋を移籍。趣味は読書

「怪我もなく調子はいい。自分の力を出すことだけを考えて稽古している」。吉良町出身の力士・魁勝さんに話を聞いたのは、大阪市で行われる3月場所の直前。とにかく勝ち越したい」と、力強く意気込みを語ってくれました。「日本の国技」ともいわれ、高い人気を誇る大相撲には、約600人の力士が在籍。その大半は、力士養成員の立場である幕下以下の力士です。幕下で結果を残すことができれば十両に昇進し、一人前の力士として認められます。十両以上の力士はたったの 人で全体

にしおの

ふるさとの応援を力に
西尾市出身力士・魁勝

おっ!



の約 パーセント。さらに横綱や大関などの地位まで上り詰める力士はほんの一握りしかいません。競争が激しい勝負の世界で、魁勝さんは将来有望の若手力士として注目を集めています。幼い頃から体が大きく、柔道に親しんだ魁勝さん。通っていた吉良柔道教室の当時の教室長、内藤勉さん(吉良町)は「気が優しく、真面目な性格。体の大きさに頼って力任せにならず、基礎からしっかりと練習していた」と懐かしそうに振り返ります。中学時代には大会で優勝するほどの実力を付けて、卒業後は強豪の愛産大三河高校(岡崎市)に進学します。県大会で準優勝するなどの活躍が相撲関係者の目に留まり、友綱部屋に入門。現在は元大関魁皇の浅香山親方が創設した浅香山部屋に所属しています。「柔道と相撲は全く違う競技。最初は序二段(下から2番目の階級)の力士にも勝てなかった」と魁勝さん。相撲の動きに慣れず、なかなか上手いかなかったそうです。しかし、焦ることなく稽古を積み

重ね、番付を上げていきます。三段目(下から3番目の階級)で好成績を収めた魁勝さんは、年の5月場所ですべて幕下に昇進。何度か三段目に降格するものの、年の1月場所では7戦全勝の成績で見事三段目優勝を飾ります。幕下に復帰し、直近3場所はいずれも勝ち越し。好調を維持して迎える3月場所の番付は、東幕下四枚目で、十両昇進が近づいてきています。周りは期待して声を掛けてくれるけど、あまり考えないようにしている」と魁勝さん。得意の四つ相撲(相手とまわしを取り合って組む相撲)を磨き、自分の力を出し切ることに集中しています。将来のスター候補に地元の期待も高まります。昨年 月、市民の有志でつくる、魁勝応援会が発足。魁勝さんとの交流会や稽古見学、会報誌の配布などを行い、応援の機運を高めています。中村充さん(吉良町)は、自身が経営するデイサービス施設に毎年魁勝さんを招待。利用者から「頑張れ」と声を掛けられると笑顔で優しく対応してくれる」と魁勝さんの人柄を教え



内藤勉さん(左) 中村充さん

てくれました。地元の応援に魁勝さんは「うれしいし、頑張ろうと思わせてくれる」と感謝の気持ちを語ります。名古屋で開催される7月場所の前には、毎年必ず西尾に帰郷。4月7日 に総合体育館で開催される「大相撲西尾場所」にも、郷土力士として出場します。憧れの力士は 年以上にわたって大関として活躍し、幕内最高優勝5回を誇る親方。左四つ右上手という絶対的な得意技を持っていた現役時代の親方のように「誰にも負けない得意技を身に付け、勝てる力士になりたい」。目標に近づくため、人としても尊敬する親方の下で日々稽古に励んでいます。「冷静に力を発揮できれば勝てるはず。頑張つてほしい」と、内藤さんと中村さんはさらなる飛躍に期待を寄せます。「早く十両に昇進して、応援してくれる皆さんに大銀杏姿を見せたい」と抱負を語る魁勝さん。地元の声援を受け、高みを目指して土俵に上がる大きな背中から、これからも目が離せません。

(金原拓矢)



応援会主催の激励会で軽々と女性を持ち上げる魁勝さん

